

植物ゲノム・遺伝子源解析センター 月例セミナー

とき 平成29年5月19日（金）16時～17時

ところ 農学部DS304講義室

題目 「PDCAがカーネーション切り花の観賞期間
およびエチレン生合成に及ぼす影響について」

講師 農学部准教授 小杉 祐介 博士

概略

花卉老化は切り花の観賞期間を制限する主要因である。花器官で生成したエチレンによって花卉老化が誘導されるカーネーションなどの切り花では、エチレンの生合成・作用を抑制することが観賞期間の改善に有効である。2,4-ピリジンジカルボン酸（2,4-PDCA）は近年、カーネーション切り花でエチレン生成を抑制し花卉老化を遅延する効果が見出された化合物で、エチレン生合成系のACC酸化酵素（ACO）活性を阻害する作用が認められている。最近、カルボキシル基の位置が異なる複数のPDCAがカーネーション切り花の観賞期間の延長に効果を持つことが報告された。本セミナーではこれら複数のPDCAの効果について、ACO活性とエチレン生成への影響の比較を中心とした演者らの研究も含め紹介する。

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター
(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)